

図書館目録をめぐる最近の動向

—2007年からの1年半

0. はじめに

●「図書館目録の将来設計 (続)」: 2008年のグループ研究テーマ

ここ数年、図書館目録のありかたに強い危機意識を持って、今後のありかたを考え直すべきとする提起がさかんになされ、論議が続いています。2008年1月には、米国議会図書館(LC)の「書誌コントロールの将来に関するワーキンググループ」が報告書を発表し、書誌コントロール活動全般にわたって図書館コミュニティやLCがなすべき方策を整理しています。論議が活発とはいえなかったわが国でも、国立国会図書館による「書誌データ作成方針」の明文化や、国立情報学研究所によるNACSIS-CATの将来像検討などの動きが出てきています。

また、これからの目録(OPAC)に求められる機能についての論議やシステム構築実践も盛んに行われています。百花斉放のなか、一部の機能(FRBR化や「ファセットクラスタリング」など)は「次世代標準」と位置づけられつつあるようにも見えます。

さらに、IFLAが進める「国際目録原則」は2008年中に完成予定で、RDA(次期AACR)も、一部に不透明感をはらみながらも完成への道を歩んでいます。これら規則類の大きな変革は、必然的にOPACの設計や目録業務の見直しといったことにも影響を与えてくるでしょう。

当グループでは2007年度に引き続き「図書館目録の将来設計」を年間テーマとし、目録や書誌コントロールの将来像を考えていきたいと思います。

●本日のテーマ: 図書館目録をめぐる最近の動向: 勉強会報告を中心に

図書館目録は大きな転換期にあり、規則類の大改訂、検索システムの再設計、目録業務の見直しなど、全般にわたって内外にさまざまな動きが見られる。当グループでは2007年度から「図書館目録の将来設計」を中心テーマとし、月例研究会のほかに、最近の関連文献を輪読する勉強会活動も行ってきた。今回は、勉強会報告に別途の情報整理も含め、国内外の最近の動きを広く見渡してみたい。

●勉強会(2008.1~)

- ・フォークソノミー関係文献(1回)
篠原稔和「ファインダビリティ向上を実現するフォークソノミー」『カレントアウェアネス』291, pp.3-5, 2007.3 (<http://www.dap.ndl.go.jp/ca/modules/ca/item.php?itemid=1061>)ほか
- ・谷口祥一、緑川信之『知識資源のメタデータ』勁草書房, 2007(6回)
- ・OpenURLとリンクリゾルバ関係文献(1回)
増田豊「OpenURLとS・F・X。」『カレントアウェアネス』274, 2002 CA1482 <http://current.ndl.go.jp/ca1482>
松下茂「OpenURLとリンクリゾルバがもたらした研究情報サービス」『情報管理』50(9), 2007, pp.550-557 http://www.jstage.jst.go.jp/article/johokanri/50/9/550/_pdf/-char/ja/

- ・国立情報学研究所「次世代目録WG」中間報告書（2回）
- ・LC「書誌コントロールの将来」WG報告書（3回 現在進行中）

●本日の発表（渡邊）

- ・グループ研究テーマより少し広く
具体的には、目録規則等の動向を含む
- ・「別途の情報整理」による
『図書館年鑑』2008（近く刊行）の「整理技術と書誌情報」をもとに
別紙は著者版原稿（8月刊行予定）
2007年（暦年）の動向
+ α（2008）

1. 書誌コントロールの将来

● 米国議会図書館（LC）のWG報告

- ・Library of Congress Working Group on the Future of Bibliographic Control¹
（詳しくは吉田先生より）
 - ・2006.11 発足・検討作業
 - ・報告草案を公開（2007.11）し、パブリックコメント
それを反映して最終報告 *On the Record*（2008.1）
 - ・T. Mann（LC 専門職組合）の批判論（2008.3）²
 - ・LC（Marcum 副館長名）の回答書（2008.6）³

● 国立国会図書館の新しい書誌コントロール方針

- ・書誌コントロール活動の節目
『日本全国書誌』冊子版が終刊（2007.6）
『全国書誌通信』から『NDL 書誌情報ニュースレター』へ
「納本制度 60 年」
- ・書誌調整連絡会議（2007.11.16）
- ・「国立国会図書館の書誌データの作成・提供の方針（2008）」⁴
2008.3 策定（正式公開は 5/16）
6つの方針
書誌データの開放性
情報検索システムの向上
多様な対象（電子情報資源を含む）をシームレスに
書誌データの見直し（有効性を高める）

¹ <http://www.loc.gov/bibliographic-future/>

² “On the Record” but Off the Track <http://www.guild2910.org/WorkingGrpResponse2008.pdf>

³ *Response to On the Record*
http://www.loc.gov/bibliographic-future/news/LCWGRptResponse_DM_053008.pdf

⁴ <http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/kihon.html>

書誌データ作成の効率化、迅速化
外部資源、知識、技術の活用
おおむね5年間を対象とした具体施策

● OCLC の動向

- ・ データベースの拡大
 - RLG データとの統合 (2007.4～)
 - ニュージーランドの総合目録からデータ提供 (2007.2)
 - 台湾の 200 館が参加 (2007.3)
 - オーストラリアの総合目録 (800 館) からデータ提供 (2007.4)
 - ドイツ国立図書館からデータ提供 (2007.4)
 - 中国国家図書館のデータ提供 (2008.2 発表)
 - TRC のデータ提供 (2008.5 発表)
- ・ サービスの拡大
 - xISBN サービス (正式には 2007.2)
 - 同一著作に属する資料をグルーピングする情報
 - 参加機関データ WorldCat Registry (2007.2)
 - 参加館向けカスタマイズ WorldCat Local (2007.4)
 - Google とのデータ連携合意 (2008.5)
- ・ 次世代目録プロジェクト (2007.12?)⁵
 - 出版社、ベンダーとの協働

● 国立情報学研究所 NACSIS-CAT の将来展望

- ・ 現在の位置づけ
 - 最先端学術情報基盤 (CSI : Cyber Science Infrastructure)
 - 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業
 - 目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL)
 - 学術機関リポジトリ構築連携支援
 - 電子図書館、学術雑誌公開支援、など
- ・ 最近の動き
 - 所蔵レコード 1 億件へ (2008 年度中)
 - 「目録業務外注仕様書モデル」 (2007.8)
 - 「視聴覚資料の取扱い及び解説」 (2007.5)
 - 研修・講習会の改善アクションプラン (2007.4?)
 - 電子情報資源管理システム (ERMS) 実証実験 (2007～)
 - メタデータ・データベースの終了 (2008.3)
- ・ 国立大学図書館協会の要望書
 - 「目録所在情報システム更新に対する要望について」 (2007.11)⁶

⁵ <http://www.oclc.org/productworks/nextgencataloging.htm>

⁶ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/>

- ・「次世代目録ワーキンググループ」の検討
 - 「図書館連携作業部会」の下に
 - 外部研究者（客員教員）＋図書館員＋NII 研究者等
 - 「中間報告」（2008.3）⁷
 - 環境変化の認識
 - 電子情報資源の拡大（目録記述の困難さ、粒度の変化）
 - 電子情報資源間のリンク可能性の増大
 - 利用者行動スタイルの変化
 - 図書館システムの複雑化（断片化）と統合環境の必要性
 - 経営合理化要請
 - 電子情報資源への対応
 - CAT とは別に「電子情報資源用データバンク」
 - 各大学での ERMS 等による管理を前提
 - 書誌データとデータ構造の見直し
 - 抜本的見直しの必要性（各種標準の動向を見極めながら慎重に）
 - Web API によるデータ提供
 - 意義はわかるが、慎重に対応（共同分担の理念との関係）
 - 運用体制の抜本的見直し
 - 新刊の「発生源入力」＋オリジナル目録の集中化
 - 作業負担の合理化（インセンティブモデルなど）
 - 検討ワークショップ（2008.6.6 NII オープンハウス）

2. OPAC と検索システムの改良

● 海外の次世代 OPAC

- ・標準的な方向性は固まりつつある？
 - 簡略検索画面、レレバンスランキング
 - FRBR 化、ファセットクラスタリング
 - 利用者参加（ソーシャルタギングなど）
 - レコメンデーション
- ・オープンソースの新しい OPAC
 - VuFind ベータ版公開（2007.7）⁸
 - オーストラリア国立図書館が総合目録に採用（開発中）
 - eXtensible Catalog (XC) 第 1 フェーズ報告書（2007.5）
 - ロチェスター大学で開発中
 - Scriblio 正式リリース（2007.6）
 - ブログソフト Wordpress 上で動作（旧・WPOpac）

⁷ 「次世代目録所在情報サービスの在り方について（中間報告）」

http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/project/catwg_interim.html

⁸ <http://www.vufind.org/>

- ・新たな試み
 - アナーバー公共図書館の SOPAC (2007.1) ソーシャル機能
 - OCLC WorldCat Identifier(2007.2) より詳細な著者情報
 - カリフォルニア大、WorldCat Local で次期総合目録を構築 (2007.6 発表)
 - AquaBrowser と LibraryThing の提携 (2007.8)
 - OCLC Audience Level (2008.?) 資料のターゲット層を推定
 - LC、LCCN を用いた固定 URL の付与 (2008.2)
 - ミシガン大、Google を通じてデジタル化した図書 of 全文検索 (2008.6)

● 国内の新しい試み

- ・国会図書館 PORTA (2007.10)
 - 書誌データと各種アーカイブとの統合検索、連想検索、Wikipedia へのリンク
 - パーソナライズ、ブックマーク、API 公開 (2008.3) など
- ・電子情報資源との統合検索、リンク
 - NDL-OPAC から「近代デジタルライブラリー」へのリンク (2007.10)
 - 実践女子大学 OPAC (2007.4)
 - オープン電子リソース (青空文庫など) を蔵書と同時検索
 - 市川市立図書館 OPAC で青空文庫検索 (2008.6)
 - 宮崎大学 OPAC で機関リポジトリ横断検索結果も合わせて表示 (2007.8)
- ・その他の機能
 - NDL-OPAC の詳細表示画面に固定 URL (2008.4)
- ・Project Next-L
 - プロトタイプ公開⁹ (2008.4?)

3. 目録標準の動向

● IFLA 書誌調整部会 (目録分科会) の動向¹⁰

- ・「国際目録原則覚書 (Statement of International Cataloguing Principles)」
 - IME-ICC4 (2006.8 ソウル) の報告書刊行 (日中韓英対訳) (2007.8)
 - 南ア・プレトリアで IME-ICC5 (2007.8) 大陸別会議終了
 - 最終草案を公開し World Wide Review (2008.5 〆切は 6 月末)¹¹
 - 本文、用語集とも当初案からは一定の修正あり
- ・ISBD
 - 「予備統合版 (Preliminary consolidated edition)」(2007.4)¹²
 - 全 ISBD を統合してエリア別に一本化、ルーズリーフ形態で刊行
 - さらに例示の整備など

⁹ <http://kamata.lib.teu.ac.jp/trac/catalog/>

¹⁰ IFLA Cataloguing Section <http://www.ifla.org/VII/s13/>

¹¹ http://www.ifla.org/VII/s13/icc/principles_review_200804.htm

¹² <http://www.ifla.org/VII/s13/pubs/cat-isbd.htm>

- FRBR (「書誌レコードの機能要件」)¹³
 修正版 (2008.2) 「表現形」の定義など、小規模な修正
 FRBRoo (オブジェクト指向モデル版) Ver.0.9.1 (2008.1)¹⁴
 FRBR モデルの応用
 画像用の DC プロファイル Images Application Profile (2008.4)¹⁵
 JISC 等による。2006 には Scholarly Works AP も
- FRAD (「典拠データの機能要件」)¹⁶
 修正草案 (以前の草案は「FRAR」) を発表、2nd World Wide Review (2007.4-5)

● RDA (Resource Description and Access) の動向

- 「AACR2 改訂合同委員会」から「RDA 開発合同委員会」へ (2007.4)¹⁷
 JSC: Joint Steering Committee for Development of RDA
- 他のメタデータ標準との接合
 Coyle & Hillmann の批判論文¹⁸が一つの契機
 「データモデル会議 (Data Model Meeting)」(2007.5)
 RDA 関係者と DCMI (ダブリンコア) 関係者
 両コミュニティ協働の方向性を確認 (Application Profile 作成など)
 DCMI/RDA Task Group¹⁹
 RDA 語彙プロジェクト (RDA Vocabularies Project)
 RDFS や SKOS で汎用的に表現できる語彙セットを作成
 目録作成や利用の「シナリオ」
- 全面再構成 (2007.10)
 2部14章構成から10セクション37章構成へ (p9 参照)
 FRBR への密着度が強まる
- 草案公開と意見広聴
 書誌記述の基本部分は 2005 年 12 月に公開
 「キャリアの記述」二次案 (2007.3)
 「情報資源に関わる個人・団体・家族」「関連する情報資源」二次案 (2007.6)
- * ここまでは旧枠組
 著作、表現形、個人、団体、家族、場所の識別・属性・関連 (2007.12)
 2008 年 8 月最終草案公開、2009 年刊行予定
- 館界の対応

¹³ <http://www.ifla.org/VII/s13/frbr/>

¹⁴ Working Group on FRBR/CRM Dialogue
http://www.ifla.org/VII/s13/wgfrbr/FRBR-CRMdialogue_wg.htm

¹⁵ http://www.ukoln.ac.uk/repositories/digirep/index/Images_Application_Profile

¹⁶ Working Group on Functional Requirements and Numbering of Authority Records (FRANAR)
<http://www.ifla.org/VII/d4/wg-franar.htm>

¹⁷ <http://www.collectionscanada.gc.ca/jsc/>

¹⁸ Karen Coyle & Diane Hillmann "Resource Description and Access (RDA): Cataloging Rules for the 20th Century" *D-Lib Magazine*, 13(1/2), 2007. <http://www.dlib.org/dlib/january07/coyle/01coyle.html>

¹⁹ <http://dublincore.org/dcmirdataskgroup/>

4 カ国（英米加豪）国立図書館の共同発表（2007.10）

2009年までに RDA 導入

ALA の「RDA 実装タスクフォース」（2007.4 本格始動は秋）

LC の WG 報告で「一時中止」を勧告（2008.1）

JSC は作業継続

RDA/MARC WG 発足（2008.3）。英米加の国立図書館による

米国3国立図書館の共同声明（2008.5）²⁰

RDA は推進するが、諸々の検証。2009年中の導入はない

● LCSH（米国議会図書館件名標目表）の動向

- ・「カルホーン報告書」（2006.3）以来の焦点
- ・LC の WG 報告でも事前結合方式の見直し等に言及
- ・事前／事後結合方式の得失を中心とした報告書（2008.2）²¹

● その他

- ・MODS Ver.3.3（2008.1）
- ・DC 抽象モデル（DCMI Abstract Model）改訂（2007.6）

● 国内の諸ツール

- ・NCR（日本目録規則）
改訂のめどはまだたたず
- ・NDC（日本十進分類法）
改訂作業、図書館調査附帯調査（2008）
- ・BSH（基本件名標目表）
全国図書館大会分科会（2007～）、件名「癩（らい）」の問題（2006.12）
- ・NDLSH（国立国会図書館件名標目表）
見直し作業はいったん終了し、追加件名を公開
- ・国会図書館のメタデータ基準
「NDL デジタルアーカイブシステム・メタデータスキーマ」（2007.7）
長期保存を意識、記述メタデータには MODS を採用
なお改訂作業
「国立国会図書館ダブリンコアメタデータ記述要素（DC・NDL）」（2007.5）

²⁰ http://www.loc.gov/bibliographic-future/news/RDA_Letter_050108.pdf

²¹ *Library of Congress Subject Headings: Pre- vs. Post-Coordination and Related Issues*
http://www.loc.gov/catdir/cpsd/pre_vs_post.pdf

4. その他

● 情報組織化研究（国内）

- ・ 整理技術研究グループ 50 周年（2007.8）

「情報組織化研究グループ」へ（2008.1）

- ・ 日本図書館情報学会

学会賞：谷口祥一氏

A Conceptual Modeling Approach to Design of Catalogs and Cataloging Rules（ひつじ書房, 2007.2）

奨励賞：鵜田拓哉氏「電子資料を対象にした FRBR モデルの展開」

- ・ 情報組織化関係図書

谷口祥一、緑川信之『知識資源のメタデータ』（勁草書房, 2007.5）

長田秀一『知識組織化論』（サンウェイ出版, 2007.8）

『整理技術研究グループ 50 周年記念論集』（同グループ, 2007.9）

2006年4月会議で決定された RDA の旧枠組み(さらにその前は3部構成)

General Introduction

Part A. Description (書誌記述)

Chap. 1. General guidelines on resource description

Chap. 2. Resource identification

タイトル、責任表示、版表示、出版、シリーズ等のエレメント

Chap. 3. Carrier

メディア種別・キャリア種別及び数量、大きさ、材料、色等のエレメント

Chap. 4. Content

内容種別及び対象読者、言語、再生時間、縮尺等のエレメント

Chap. 5. Acquisition and access

入手条件、アクセス制限等のエレメント

Chap. 6. Persons, families, and corporate bodies associated with a resource

アクセスポイントの選択

Chap. 7. Related resources

リソース間の諸関係

Part B. Access Point Control (典拠コントロール)

Chap. 8. General guidelines on access point control

Chap. 9. Persons

Chap. 10. Families

Chap. 11. Corporate bodies

Chap. 12. Places

Chap. 13. Works, expressions, manifestations, and items

Chap. 14. Other information used in access point control

Appendix

2007年10月会議で決定された、RDA の最新構成

セクション1: 表現形および個別資料の属性

1章 一般的ガイドライン

2章 表現形および個別資料の識別

(タイトルをはじめ、従来の記述の中心部分にあたる)

3章 キャリアの記述 (従来の第5エリアにあたる)

4章 取得とアクセス情報の提供

セクション2: 著作および表現形の属性

5章 一般的ガイドライン

6章 著作および表現形の識別

(従来の統一タイトル等にあたる)

7章 著作および表現形の付加的属性の記述

セクション3: 個人、家族、団体の属性

8章 一般的ガイドライン

9章 個人の識別 (従来の個人標目にあたる)

10章 家族の識別

11章 団体の識別 (従来の団体標目にあたる)

セクション4: 概念、物、出来事、場所の属性

12~16章

* 16章(場所の識別)以外は、刊行後に展開予定

セクション5: 著作~個別資料の間の主要な関連

17章 一般的ガイドライン

セクション6: 資料と個人、家族、団体との関連

18~22章 (従来の「標目の選定」にあたる)

* 一般的ガイドラインと著作~個別資料の4章

セクション7: 主題の関連

23章 刊行後に展開予定

セクション8: 著作~個別資料の間の関連

24~28章 (「その他の関連」にあたる部分)

* 一般的ガイドラインと著作~個別資料の4章

セクション9: 個人、家族、団体との間の関連

29~32章 (典拠レコードの「をも見よ参照」にあたる)

* 一般的ガイドラインと個人・家族・団体の3章

セクション10: 概念、物、出来事、場所の間の関連

33~37章 刊行後に展開予定